

健康管理センター報告書

第3号（平成16年度～20年度）



日本女子体育大学

I. はじめに

日本女子体育大学、健康管理センターは平成5年度に設立され本年度で16年の歳月を経た。設立時には基礎体力研究所、新設の大学院の諸研究設備機能と連携を保ちながら有機的、総合的に利用すれば我が国スポーツ医科学の中心的存在となると熱い理想のもとにこの小さなキャンパスに他に類を見ない誇るべきリハビリテーション室を備えた健康管理センターが設立された。設立時の理想、意義、準備の状況は既報の健康管理センター第1号、2号に詳しく記されているのでここでは省略する。箱もの、設備は備えたものの中身はどうかとソフト面が重要になってくるのであるが、これも既報告の資料が示すとおり、授業時、クラブ活動時の諸障害の対応とリハビリテーション、健康教育、勉強会の開催などその器は存分に毎日、年間を通して、有機的に利用されてきた（巻末、年間活動表参照）。

健康管理センター業務は大きく3つの領域に区分される。1つは健康管理事務作業、健康相談と指導、救急処置を行う領域、ここでは常時専任の看護師と非常勤の看護師2名が在住し、学生の対応と健康指導、事務作業等を行っている。通常勤務の他に入学式、オープンキャンパスなど、週末、休日に行事がある場合にもセンターは開設し、スタッフは待機している。2つ目の領域は、リハビリテーション室。専任の理学療法士を中心とし、非常勤の理学療法士（週5日勤務）、数名の診療補助メンバーが業務にあたっている。また、週2回、整形外科医の診療が行われている。これらの理想的な業務の遂行が可能であるのは、専任の看護師、理学療法士が大きな役割を果たしている。3つ目は、こころの領域、カウンセリング。学生、教職員のカウンセリングの対応は設立当時からなされているが、近年、本学でもこころの悩みをもつ学生が増加しており、臨床心理士2名がカウンセリングを行っている。また、昨年より、健康管理センター内で、臨床心理士資格をもつ教員の指導のもと、学生の悩みを学生が聞くこころの相談室、ピアサポートの活動も活性化しつつある。こころの悩みをもつ学生の受け入れ体制は、学生たちが気軽に相談できるような環境を整えるように研究され、活動を実施している。

今後の課題

以上のように、設立以来、関係者各位の努力により、ソフト面の充実は次第に洗練、充実してきており、外部から学生の受け入れ申請や講師の依頼などの機会も増えている。しかしながら、ハード面においては、この数年は設備機器の老朽化に対する処理、改善を行う必要性が出てきている。とくにリハビリ関連の設備、機器に老朽化がみられ21年度には超音波治療器、SSP療法治療器の取り換えを行った。漸次様子をみながらこまめに手を入れて、必要な取り換えを行うこととなろう。

健康管理センターに沢山の学生が利用できるということは望ましいことのようにあるし、必要なスタッフを増員することもきめ細かな指導や治療が行えることであるが、もっとも望ましいのは、病気をしない、けがをしない心身ともに健康な学生を育成し、管理センターはいつも閑古鳥が鳴いている状態の方がさらに望ましいわけである。大学の経費削減にもなる。これは、元気な国民の育成が国家予算削減に繋がることと同様である。これからは、教学サイドの先生方やクラ

ブのコーチ、部長などと連携をとりながら障害防止教育、健康教育をさらに充実させ、けがをさせない、病気にならない注意と教育を重要視する必要がある。

こころを病む人々は社会不安が増すとともに増加する。この資料からも解読できるように年々カンセリングを受ける者が増加している。これも策を講じなければ2名のカウンセラーやピアサポートのメンバーの活動だけではカバーできないことになる。大学全体であたたかいコミュニケーションがとれる場を再認識し、一層充実した体制をつくることが望ましい。本学は明朗快活な性格の学生が多く、挨拶もさわやかで、外部からいらした人に何度も感心された。これも学長や先生方の普段の教育指導のたまものと思われるが、気持ちのよい挨拶が交わされることだけでも救われることもある。また、本学の教育は手塩にかける教育が伝統的になされてきた。これは、学生の教員に対する信頼と尊敬、互いの絆を深め、愛校心を育むとともに望ましいこころの教育になる機会を多く得ることでもある。すなわち、それは、学問を学ぶと同時に日常生活を健康に保ち、ことばづかいや礼儀を正すだけでなく、こころの闇を埋めるために使用してしまう薬物・麻薬使用の誘惑からも学生たちを守ってゆくことにもなっている。

2008年は麻疹、2009年は新型インフルエンザの世界的流行でいずれも大学の対策本部が設置され、その対策活動を行ってきた。特に麻疹対策は殆んど万全に近いきめ細かい、計画と作業が実施され成果を挙げた。インフルエンザは秋期から冬期にかけて、猛威をふるうことが予測されるが政府の対策と連動しながら学園全体に、冷静な予備対策の実施を呼び掛けたいと思う。これからは感染病などの病気だけでなく、地震などの災害が発生することも想定し、健康管理センターがどのような形でこれらに対処できるか、どうすれば効率のよい対処のしかたができるか、対処の幅を拡大できるかなど、普段から大学本部とともに実践の可能性を探る対策を立てておくことが望ましい。

健康管理センター長 片岡 洵子

健康管理センターの現状と将来の展望について

大学というものは最高学府であるので、高等な教育を行なうべきなのは勿論であるが、それ以外にも様々な使命がある。大学生という人間を対象とするので、その健康を維持するための補助、つまり学生支援としての健康管理業務を行なう必要があり、このことは大学における様々な学生支援の中でも最も重要なものの1つと考えられる。

本学は体育大学なので、その特長としてスポーツ中の外傷が特に多く、それに対する救急処置とその回復期のリハビリテーションは重要な役割を持っている。これに関しては、本健康管理センターの設立当初の平成5年より、整形外科医による診察とリハビリテーションに力を注いでおり、専任の理学療法士が2名もおり、かなり精力的にリハビリテーションを行なっている。特に理学療法士の板倉氏は、JOCの医科学委員も勤め、ユニバーシアードなどの国際大会に帯同し、日本でも有数のアスレティックトレーナーとして、対外的にも活躍をしている。他大学の理学療法士養成校から実習に来られる学生さんも多いが、こうした本学のスポーツに特化したリハビリテーションは殆ど他大学や病院では見ることが出来ないという特徴を有しているからと思われる。また、非常勤の整形外科医（平野・中川・白土医師）の方々もいずれもスポーツ整形外科で

は有名な先生方であり、こうした医師に診察をして頂けるのは、本学の学生は大変恵まれていると考えられる。

次に内科的な部分であるが、本健康管理センターの設立後より、杏林大学内科には継続的にご支援を頂き、校医として河合医師、また非常勤医として山本医師に長年お世話になっており、例年の健康診断業務と内科的な健康相談・診察を行なっている。また、長年当センターに勤務している前田看護師が医師を支え、日常の学生の健康相談や救急処置を行ってきた。また、本年からは佐藤看護師が国立スポーツ科学センターから、本学に着任したが、オリンピックの選手も含めたトップアスリートの診療に従事していた経験も生かしながら、業務をこなしてくれている。

さて、2年前には麻疹の全国的な流行が起こり、本大学でも大学として休校措置をとり、また健康管理センターでは非常勤の医師や看護師を急遽集め、麻疹の血液中抗体価測定や、病気の疑いのある者の診察など様々な対策をとった。幸い本学の学生で麻疹に罹ったものはごく少数で、また大学内での2次感染は防ぐことができた。この問題が落ち着いてからわずか2年しか経っていないのに、今年春より新型（豚）インフルエンザが世界的に大流行し、猛威を振るっており、現在社会的な大問題となりつつあり、本学でも部活動や授業に支障が多少出ている。こうした感染症がいつ起こるかなどは予測が不可能ではあるが、起こった時にある程度の対処が可能となるように日頃より体制を整えておく必要がある。内科医の診療が週半日であるという限られた枠内のものであるので、より一層の医師の補充が必要と感じられる。

若者である学生は、大学生という多感な時期には精神疾患に罹りやすい。特にうつ状態、あるいはうつ病の学生は潜在的な者も含めると数が多く、さらに近年増加中である。本大学ではカウンセリング業務を酒井准教授と上平心理士が担当しており、十分な実績も挙げている。ただ、近年はこうした精神疾患の学生の割合が全国的にもかなり増加しており、また大学での保健管理のより一層の充実を図ることを社会からも要請されているので、更なる精神的なケアの拡充が望まれるところである。

健康管理医 松本 晃裕

Ⅱ. 各部局の活動内容

1 健康管理室の活動

(1) 健康管理

1) 定期健康診断

全学生が対象で、自己の健康に関心が持てるように、事前にポスターを掲示し、受診を促している。平成16年度から平成20年度の受診率は92%から97%であった。健康診断の結果は、後日、学生本人に配布している。

2) 健康診断後の保健指導

健康診断の結果、再検査や精密検査の必要の有無を内科医に判断していただき、呼吸器・循環器系の疾患に関しては、適切な医療機関への紹介を行っている。血液検査において貧血傾向である学生は、食生活指導を行い、3ヵ月後に当センターにて再検査の結果、継続的な貧血治療が必要な学生は医療機関の紹介を行っている。尿検査において糖・蛋白・潜血の陽性者は、当センターにて2～3回再検査を行い、いずれも陽性となった学生は、医療機関への紹介を行っている。

(2) 健康相談と診療

身体面・精神面の相談に応じ、適切な医療機関への紹介を行っている。その他、内科医による健康相談・診療、学内、学外の臨床心理士によるカウンセリング、整形外科医による診療を設けている。整形外科医の診療後は、医師の処方箋に基づき、学内の理学療法士による治療を受けることができる。

各診療科の受付時間等の詳細は当センターの入り口に掲示しているので、窓口で各診療科の予約を取り、受診ができる。(診療日当日、予約がなくても救急対応する場合もある)

平成20年度

内 科	木曜日
整形外科	水曜日（前期のみ）
	木曜日
カウンセリング	火・木曜日（学外臨床心理士）
	火～金曜日（学内臨床心理士）

(3) 応急処置

急病や外傷などに対して応急処置を行い、当センターで対応出来ない場合は、適切な医療機関を紹介している。

(4) 健康診断証明書の発行

定期健康診断受診者は、その年度内に限り健康診断証明書の発行が可能となり、証明書は、学生自身が自動発行機で発行できる。特記事項などがあり、自動発行機での発行が不可の場合は、当センター窓口で発行している。また、定期健康診断未受診者は、その年度内の健康診断証明書の発行は不可としている。

平成16年度から平成20年度の就職やアルバイト、教育実習などの際に必要となる健康診断証明書発行枚数は、約1500枚～1700枚であった。

(5) 救急箱貸出・管理

申し込みに応じて、学内外施設・各行事などに救急箱を貸し出している。

(6) 自動体外式助細動機（AED）の設置

平成17年7月 健康管理センター

平成18年5月 スポーツトレーニングセンター

平成20年5月 第2グラウンド

緊急時、迅速に対応できるよう、現在合計3台のAEDを設置し、機器の管理をおこなっている。

2 リハビリテーション室の活動

リハビリテーション室の活動は平成5年12月に部分開設、平成6年度より全面的に開設され、平成20年度をもって15年間を経過した。本学健康管理センターリハビリテーション室は理学療法士が常勤で臨床にあたる日本国内体育系大学で唯一の施設である。開設から10年間は臨床を中心に活動していたが、平成16年度からの5年間は臨床活動とともに、体育大学における健康管理センターの役割をふまえた教育的活動も展開することを目標にし、平成19年度から理学療法士養成校の臨床実習生受け入れを開始した。第3号報告書は平成16年度から平成20年度利用状況とこのような教育的活動について報告する。

(1) リハビリテーション室の利用状況

平成16年度から20年度の5年間の利用者数は22,560件、新規利用者数916名（1,145件）であった。平成18年9月より理学療法士（非常勤）1名を週3日配置、平成20年度からは週5日配置された。リハビリテーション室はスタッフが増員し、理学療法士2名、診療補助1名で診療活動を行い、平成20年度利用者数は過去最高の5815名（一日平均25.7名）であり、多くの学生を受け入れ充実した診療を行えるようになった。

年間利用状況推移では前期開始後の4月～7月、後期開始後の9月～12月に2つのピークがある。この期間、運動部は春期・秋期リーグ戦などの公式試合日程があり、そのため外傷発生も多く利用者数増加の要因の1つと考えられる。8月～9月下旬、2月下旬～3月は長期休暇（夏

期および春期)のため診療時間の短縮のため利用者数が減少している。

(2) 実施している理学療法

第1～2号の報告と同様に、鎮痛を目的とした物理療法（ホットパック、渦流浴、電気療法、超音波）と運動療法の利用が多い。運動療法は患部の機能回復を目的として行われる運動療法以外にも、運動活動再開を目標にランニングやステップ、ジャンプなども指導し、運動活動への復帰がスムーズに行えるようにしている。また練習前の準備として身体活動を効率よく行わせ、ケガの予防を図る目的でおこなう運動療法も指導・実施している。患部以外のトレーニングについてはトレーニングセンターの利用を勧め、また練習中に行える運動を指導するなどしているため実施数は少数である。テーピングについては医療的管理が必要な時期を過ぎたものについては、学生スタッフ（マネージャー、トレーナー）へ指導を行い、運動部の協力を得て対応している。

開設から15年を経て物理療法機器が耐用年数を超えており取得・交換を計画的に行っている。平成18年度に干涉低周波治療器（セダンテラディア5302／（株）日本メディクス）の新規購入、平成19年度に総合電流刺激装置（ES-520／伊藤超短波（株））のリースを開始した。今後も計画して取得・交換を行う予定である。

(3) 利用者の学年内訳

学部1年生524名、2年生289名、3年生190名、4年生123名、大学院生6名、職員13名であり、1年生の利用が多く上級生ほど新規利用者が減る傾向であった。第2号報告書でも同様の傾向がみられており、1年生のケガの予防には運動部との協力が必要と考え、協力が得られている運動部と相談し予防対策を実施しているが、入学前に慢性外傷を受傷しそのまま放置しているもの、また後遺症を有しているもの、入学時に体力低下・体重増加している新入生が多く、1年生の外傷予防はあらゆる方面から対策を講じる必要があり、怪我を減らす効果には至っていない。なお以下のデータ分析に関しては学生1,132名を対象に行った。

(4) 運動部との関係

新規利用者のなかで運動部に所属している学生は957件（84.5%）、運動部に所属していない学生は175名（15.5%）であり、運動部に所属している学生の利用が約8割である。利用が多い運動部はバレーボール部、バスケットボール部である。バレーボール部は外傷管理に関する意識が高く、学生スタッフ（マネージャー、トレーナー）が選手のケガや痛みに対して、健康管理センターと協力し外傷管理を行っている。外傷管理に積極的な運動部では軽度の外傷やコンディショニング不良による痛みでも放置せず、健康管理センターでの対応を希望し来館しているため必然的に利用が多くなっている。バスケットボール部は部員数が多く、また競技特性から外傷が多発する競技のため利用が多い。

(5) 利用者のおもな傷害部位

おもな傷害部位は膝関節、足関節、腰・背部、足・足趾部、肩関節であり、これまで報告した傾向と変化がない。利用している学生の多くがバレーボール部、バスケットボール部に所属して

おり、その競技特性から下肢の傷害が多い結果となっている。いずれの競技もジャンプや方向転換を頻回に繰り返し、またバスケットボールではランニングやコンタクトプレーがあり靱帯損傷などの急性外傷、あるいは膝蓋靱帯炎などの慢性外傷を生じている。

(6) リハビリテーション室勉強会

本勉強会は将来、体育教員やスポーツ指導者を目指す学生のために怪我が生じた際の対応とリハビリテーションの知識を確認し、スポーツ現場での適切な対応を身につけることを目的に平成14年から年6回開催している。実技を中心にした内容としているため少人数での開催にしている。参加者は平成16年度14名、平成17年度8名、平成18年度5名、平成19年度2名、平成20年度7名であった。

(7) 理学療法士養成校からの臨床実習受け入れ

平成18年度に社会医学技術学院（東京都）より本学健康管理センターに臨床実習の受け入れ依頼があり、北岡前健康管理センター長、小沼事務局長と協議・準備を行い、平成19年度より臨床実習の受け入れを開始した。平成19年度は社会医学技術学院より1名（平成20年2月25日～3月7日）、平成20年度は同学院より1名（平成21年2月23日～3月7日）、昭和大学保健医療学部より1名（平成21年2月16日～3月7日）受け入れを行った。理学療法を学ぶ学生と体育を学ぶ学生が同じ環境で学びあうことは意義があり、また国内においてスポーツ理学療法を臨床実習できる環境には限りがあるため、今後も後進育成に努めたいと考えている。

(8) その他

平成19年度より板倉尚子宛に（財）日本オリンピック委員会選手強化本部情報・医・科学専門委員会より通知があり、学内承認を得て医学サポート部会員に就任した。

3 カウンセリングルームの活動

カウンセリングルーム開室から10年となり、その存在の周知とともに、この5年で延べ1400件を越えるまでに利用者が増えている。その利用者に応え、平成17年度より臨床心理士有資格者の教員が学内カウンセラーとして相談活動に加わり、また平成19年度からは、学外カウンセラーの相談受付の時間も広げ、より幅広く相談対応ができるようになった。

(1) 開室日及び時間

学外の臨床心理士による開室日は、週2回火曜日と木曜日の2日である。開室時間は平成16年～18年度は14:00～17:00、19年度以降11:00～17:00となった。その他の曜日も学内カウンセラーが対応に当たり、火曜日から金曜日まで相談の受付が可能になった。

健康管理センターの看護師がインテーカーとして、受付および受理面接を行い、カウンセラーの時間調整なども行っている。

(2) 相談状況

平成16年度から20年度までの5年間の延べ利用件数は1414件、利用者総実数は233名であった（表1－表6参照）。月別の利用状況をみると、年度が始まる4月から7月まで徐々に利用者数が増えている。これは新しい学年に上がったことによる環境の変化に伴い、適応上のストレスが高まり、自分自身の問題が顕在化するためと思われる。長期休暇中は大学生活から離れることにより、ストレスが大幅に減少し、また帰省する者や部活動に専念する者も増えるため、利用者はかなり減っている。後期に入り、10月11月と利用者がまた増加するのは、再び大学への適応上のストレスが大きくなり、様々な問題が顕在化してくるためと考えられる。

相談内容別にみると（表7）、心理的問題が786件と多く、ついで部活動247件、身体的問題102件、家族の問題85件となっている。全体の50%以上を占める心理的問題とは表8に示したように、対人緊張、自傷行為、摂食障害など青年期特有の問題が多い。また学業以外の活動はできるが授業には出てこれられない等の成人にみられる抑鬱症状とは違う形の気分障害が多い。これらの学生には必要な場合には心療内科や精神科のクリニックを紹介している。学生が学外での医療と学内でのカウンセリングを同時に受けることができるような体制を整えている。

また本学に特徴的なこととして、部活動に関する相談が多い。成績の伸び悩み、怪我などからくる落ち込みや先行きへの不安、その他の悩みから心理的問題に及ぶケースもある。今後カウンセリングルームとしてもこれまでの相談経験を生かした提言ができるのではないかとと思われる。

学年別にみると（表9）、学部の3年生が全体の3割を占めている。今まで抱えていた問題が就職活動や教育実習の準備を通して意識され相談室を訪れるケース、進路を考えながら自らの学生生活を振り返るケースなどがある。また、「その他」の人数も全体の7.4%に達している。「その他」とは教職員、学生の家族、卒業生が入るが、その内容は学生への対応、心理的援助が必要な家族への関わり方などを考えるケースである。中には何回かの継続相談として来室する場合もある。

青年期は自らのアイデンティティを確立する時期だといわれている。多様化する価値観の中で学生は様々なストレスを受けながらも自分自身を成長させていかなければならない。カウンセリングルームはこれらの学生たちの精神的支えとなり、その成長のための心理的援助を行っている。大学教育の一環として今後もその役割をしっかりと果たしていきたい。

臨床心理士 酒井久実代（学内カウンセラー）

臨床心理士 上平 京子（学外カウンセラー）

Ⅲ. 活 動 報 告（平成16年度から平成20年度まで）

1 定期健康診断

学生への健康診断は、各学年に対して年1回4月に実施されている。但し、卒業学年の健康診断はその前年度2月に実施している。これは、教育実習・保育実習の受け入れ校への健康診断書の学内提出期限が3月であることに対応している。就職活動の健康診断書も2月健康診断の結果を元に、校医の確認を受けて発行している。

(1) 実施日程

例年ほぼ同じ時期に実施している。

表1. 定期健康診断の実施日程（平成20年度）

日 程	対 象 者
平成20年2月2日	体育学部 新4年、大学院 新2年
平成20年4月8日	体育学部2年、3年
平成20年4月10日	体育学部1年、大学院1年

注：2月の健康診断は最終学年春の健康診断として実施している（本文参照）。

(2) 検査項目

表2. 学生の健康診断

	学 部				大学院	
	1年	2年	3年	4年	1年	2年
身長・体重	○	○	○	○	○	○
視 力		幼児発達学専攻のみ実施	幼児発達学専攻のみ実施	○		
聴 力		幼児発達学専攻のみ実施	幼児発達学専攻のみ実施	○		
内 科	○	○	○	○	○	○
胸 部 X 線	○	○	○	○	○	○
貧 血	○			○	○	
尿 検 査	○	○	○	○	○	○
血 圧	○			○	○	
心 電 図	○			○	○	

注：学部4年、幼児発達学専攻2年、大学院2年はそれぞれ3年、1年の2月実施

(3) 医師および担当機関

学生の健康診断：内科診察：杏林大学医学部呼吸器内科

その他：医療法人財団 東友会 友愛クリニック

：松井外科病院健診センター

(4) 受診者率

表3. 学生の定期健康診断の受診者率

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	受診者／ 在籍者	(%)	受診者／ 在籍者	(%)	受診者／ 在籍者	(%)	受診者／ 在籍者	(%)	受診者／ 在籍者	(%)
1年	604/605	99.8%	611/615	99.3%	589/593	99.3%	545/552	98.7%	551/553	99.6%
2年	594/622	95.5%	577/605	95.4%	589/609	96.7%	570/595	95.8%	537/557	96.4%
3年	577/590	97.8%	589/598	98.5%	572/589	97.1%	586/596	98.3%	543/568	95.6%
4年	593/643	92.2%	574/606	94.7%	577/612	94.3%	553/601	92.0%	550/620	88.7%
大学院 1年	16/18	88.9%	16/17	94.1%	12/13	92.3%	10/10	100.0%	16/16	100.0%
大学院 2年	17/20	85.0%	20/21	95.2%	19/21	90.5%	12/13	92.3%	11/11	100.0%

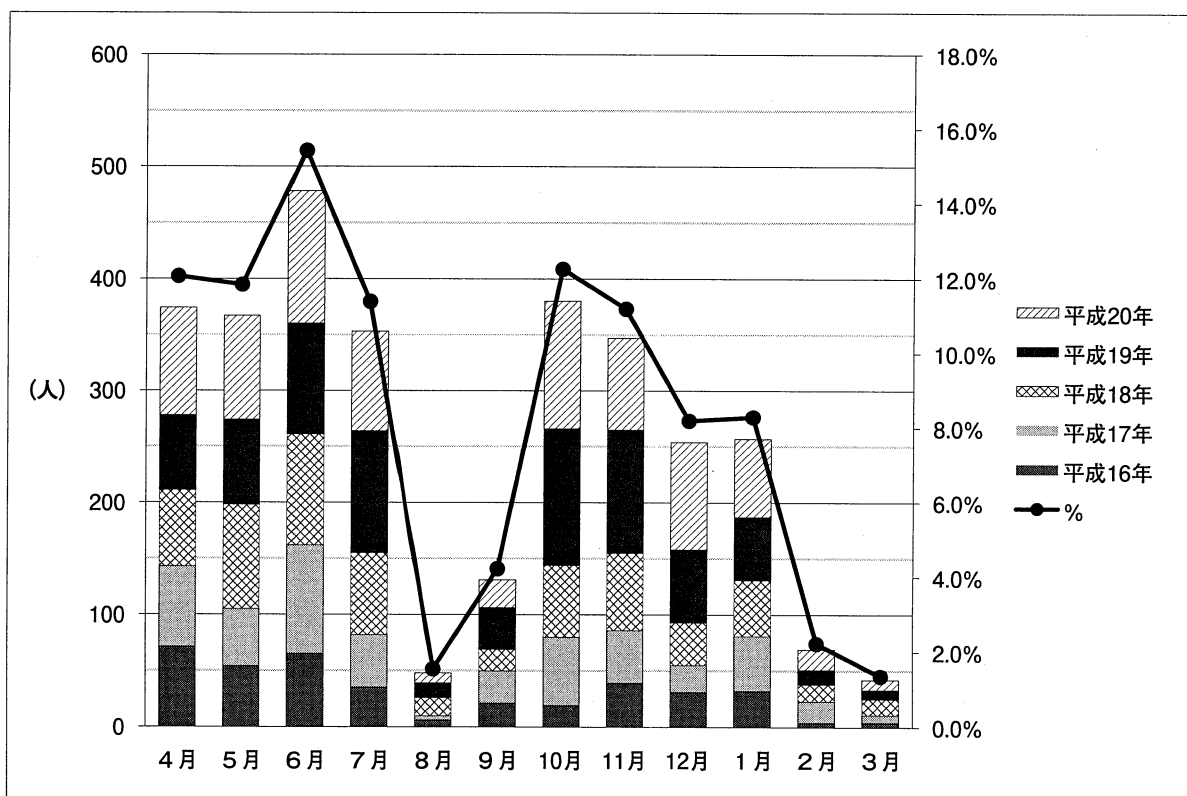
2 健康管理センター利用状況

(1) 健康管理室

1) 健康管理室利用者数

① 年度別・月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	71	54	65	35	6	21	19	39	31	32	4	4	381
平成17年度	72	51	97	47	4	29	61	47	24	49	19	7	507
平成18年度	68	93	99	73	16	19	64	69	38	50	15	14	618
平成19年度	67	76	99	109	13	37	122	110	65	56	13	8	775
平成20年度	96	93	118	89	9	25	114	82	96	70	18	9	819
合 計	374	367	478	353	48	131	380	347	254	257	69	42	3100
%	12.1%	11.8%	15.4%	11.4%	1.5%	4.2%	12.3%	11.2%	8.2%	8.3%	2.2%	1.4%	100.0%



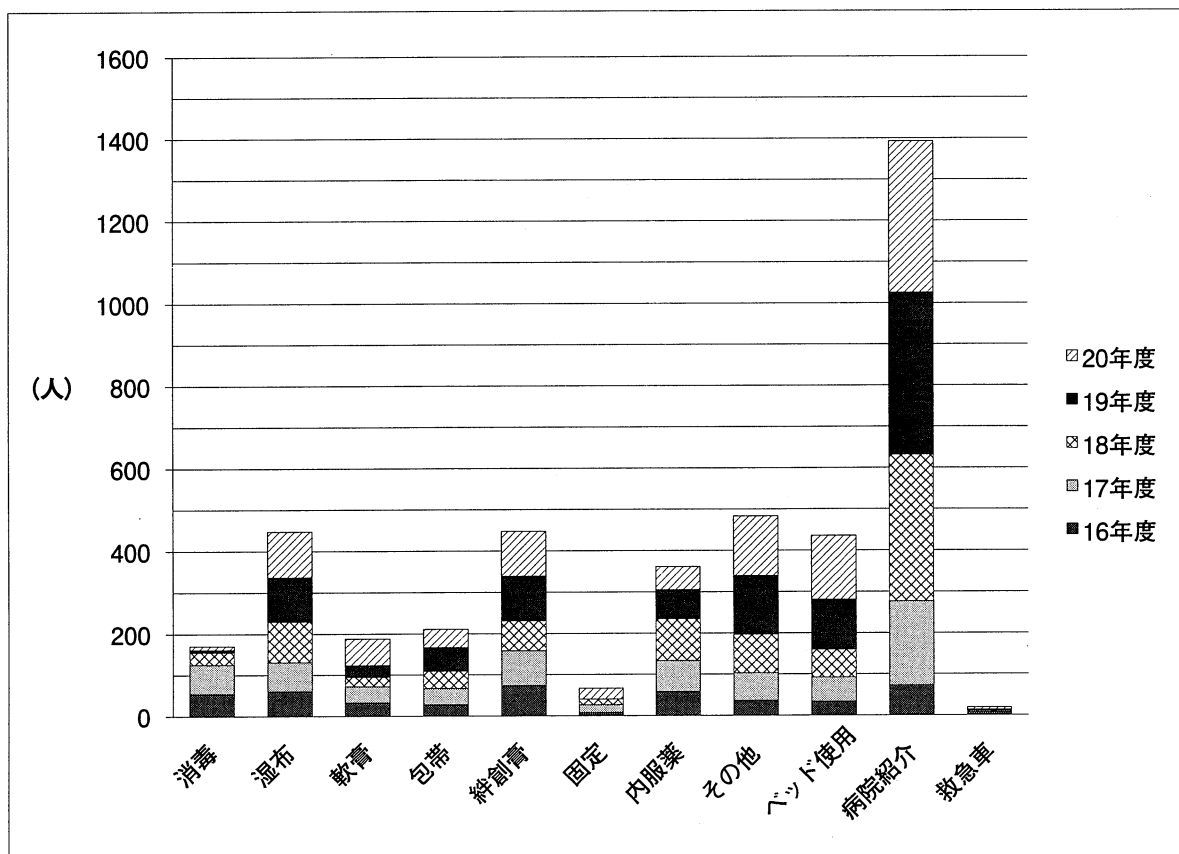
② 傷病別利用者数

		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	合計
整形外科	捻挫	37	37	46	65	49	234
	打撲	16	32	46	41	42	177
	つき指	8	19	20	10	10	67
	筋肉痛	6	5	11	10	16	48
	腱、関節痛	7	7	25	12	17	68
	筋、腱断裂	0	2	4	0	2	8
	脱臼	0	1	3	3	3	10
	骨折	2	2	1	2	0	7
	腰痛	2	3	12	10	3	30
	肉ばなれ	8	8	3	14	18	51
	ぎっくり腰	0	0	1	0	1	2
	その他	0	0	0	6	6	12
小計		86	116	172	173	167	714
外科	擦過傷	16	38	26	39	46	165
	切傷	17	13	21	30	16	97
	刺傷	2	1	1	0	1	5
	爪損傷	1	11	11	18	17	58
	頭部打撲	1	0	1	4	4	10
	その他	0	8	2	5	4	19
小計		37	71	62	96	88	354
皮膚科	くつずれ	10	21	14	15	24	84
	火傷	7	4	5	7	9	32
	マメ	8	2	3	7	2	22
	化膿	3	8	1	10	7	29
	とげ・イボ	9	8	0	6	4	27
	かぶれ	1	1	0	4	1	7
	虫刺され	3	7	6	13	8	37
	発疹	1	0	2	1	1	5
	蕁麻疹	5	2	3	7	6	23
眼科	眼外傷異物	5	5	1	4	4	19
	眼疾患	3	8	9	12	11	43
耳鼻科	鼻出血	4	4	0	2	4	14
	鼻炎	0	1	1	0	0	2
歯科	歯痛	2	0	2	1	1	6
その他		0	0	2	3	5	10
小計		61	71	49	92	87	360

内 科	生 理 痛	30	41	55	42	49	217
	か ゼ	22	30	49	61	45	207
	頭 痛	24	19	34	56	54	187
	胃 痛	7	13	23	17	17	77
	腹 痛	16	25	17	30	32	120
	発 熱	8	17	29	22	36	112
	下 痢	4	10	14	5	13	46
	気 分 不 良	32	25	28	40	67	192
	め ま い	2	4	3	5	4	18
	便 秘	0	1	0	0	0	1
	咽 頭 痛	5	16	13	25	47	106
	痙 攣	1	0	0	0	0	1
	嘔 気 嘔 吐	8	12	16	16	28	80
	過 呼 吸	3	6	7	5	9	30
	喘 息	0	0	1	1	2	4
	熱 中 症	1	0	0	0	1	2
	そ の 他	2	0	2	49	45	98
小 計		165	219	291	374	449	1498
健康相談		33	30	44	40	29	176
総 計		382	507	618	775	820	3102

③ 応急処置内訳

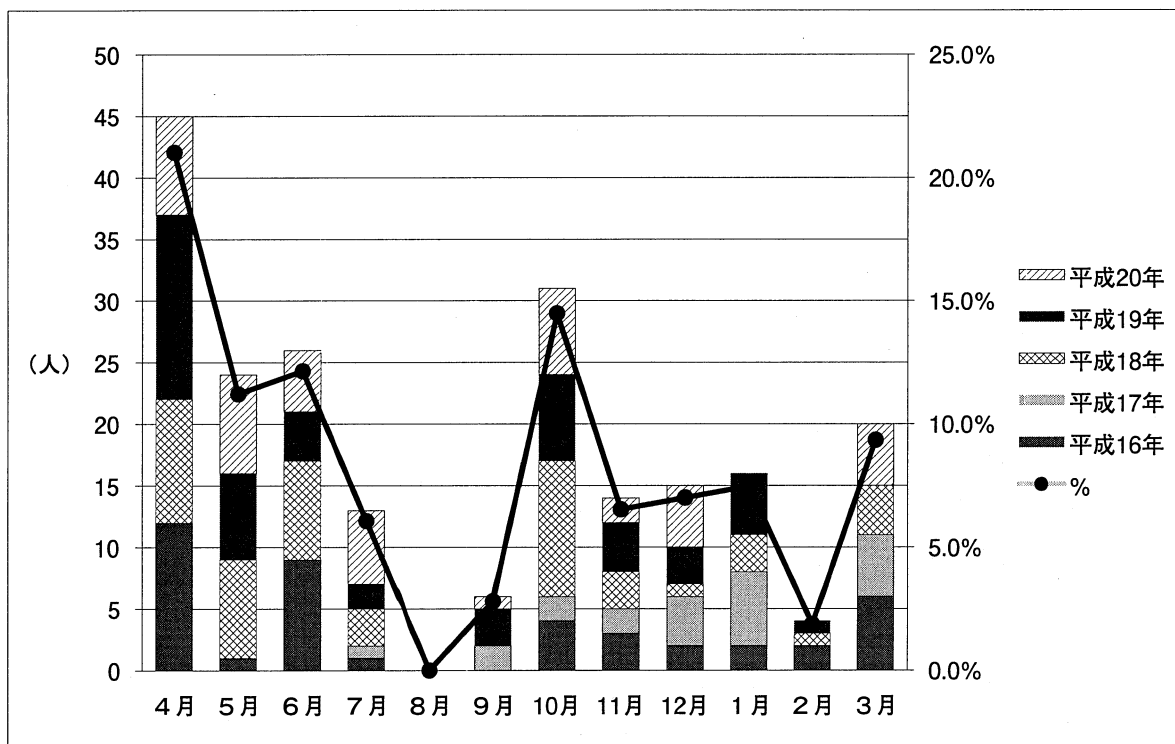
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	合計
消 毒	54	71	31	5	9	170
湿 布	60	71	99	107	110	447
軟 膏	32	40	23	28	65	188
包 帯	27	40	42	57	45	211
絆 創 膏	73	85	73	108	108	447
固 定	1	19	14	0	26	60
内 服 薬	58	75	102	70	56	361
そ の 他	36	67	94	142	144	483
ベ ッ ト 使 用	33	59	68	121	154	435
病 院 紹 介	72	205	355	393	368	1393
救 急 車	1	5	0	3	3	12
総 計	447	737	901	1034	1088	4207



2) 内科受診者数

① 年度別・月別利用者総数

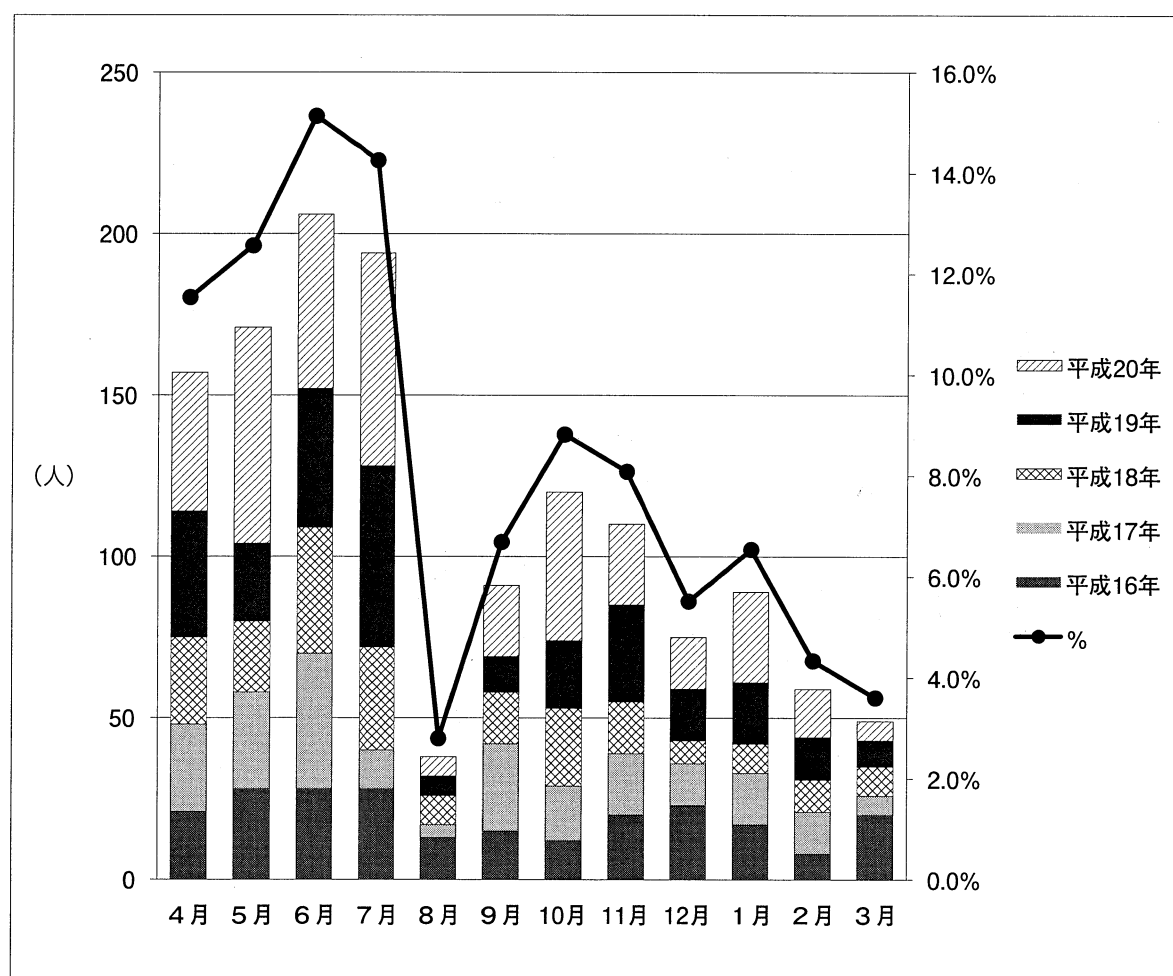
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	12	1	9	1	0	0	4	3	2	2	2	6	42
平成17年度	0	0	0	1	0	2	2	2	4	6	0	5	22
平成18年度	10	8	8	3	0	0	11	3	1	3	1	4	52
平成19年度	15	7	4	2	0	3	7	4	3	5	1	0	51
平成20年度	8	8	5	6	0	1	7	2	5	0	0	5	47
合 計	45	24	26	13	0	6	31	14	15	16	4	20	214
%	21.0%	11.2%	12.1%	6.1%	0.0%	2.8%	14.5%	6.5%	7.0%	7.5%	1.9%	9.3%	100%



3) 整形外科受診者数

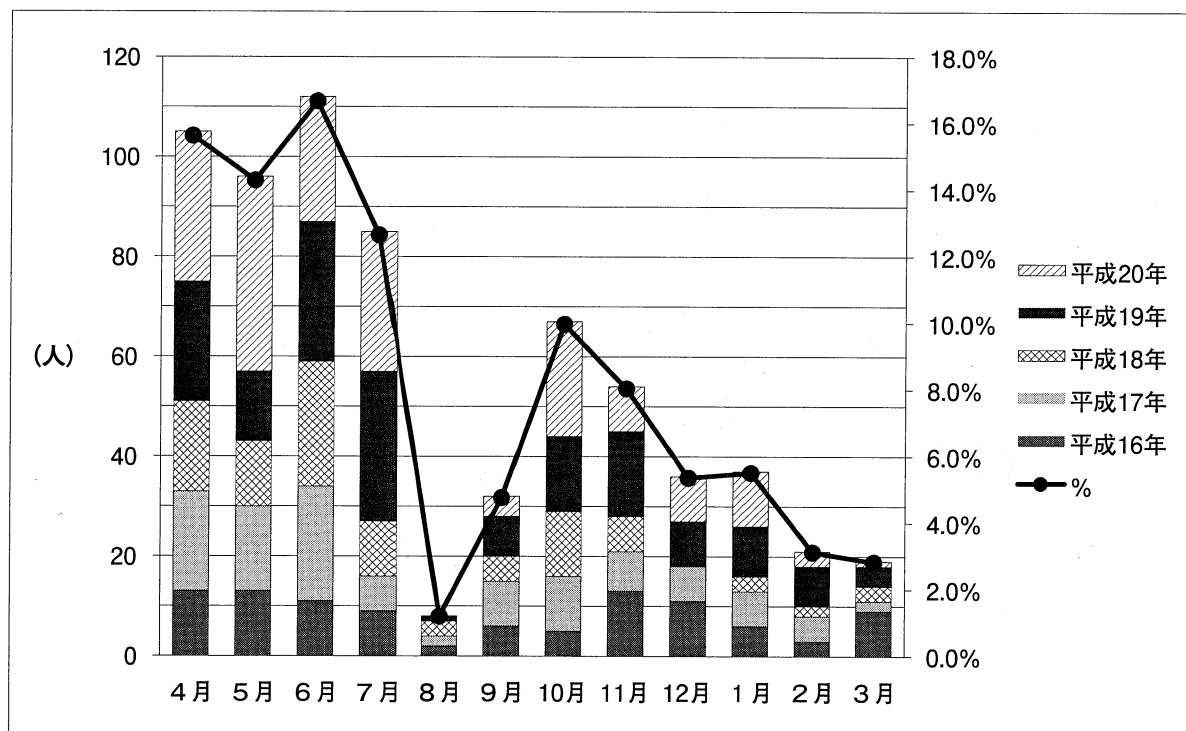
① 年度別・月別利用者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	21	28	28	28	13	15	12	20	23	17	8	20	233
平成17年度	27	30	42	12	4	27	17	19	13	16	13	6	228
平成18年度	27	22	39	32	9	16	24	16	7	9	10	9	220
平成19年度	39	24	43	56	6	11	21	30	16	19	13	8	286
平成20年度	43	67	54	66	6	22	46	25	16	28	15	6	394
合 計	157	171	206	194	38	91	120	110	75	89	59	49	1361
%	11.5%	12.6%	15.1%	14.3%	2.8%	6.7%	8.8%	8.1%	5.5%	6.5%	4.3%	3.6%	100.0%



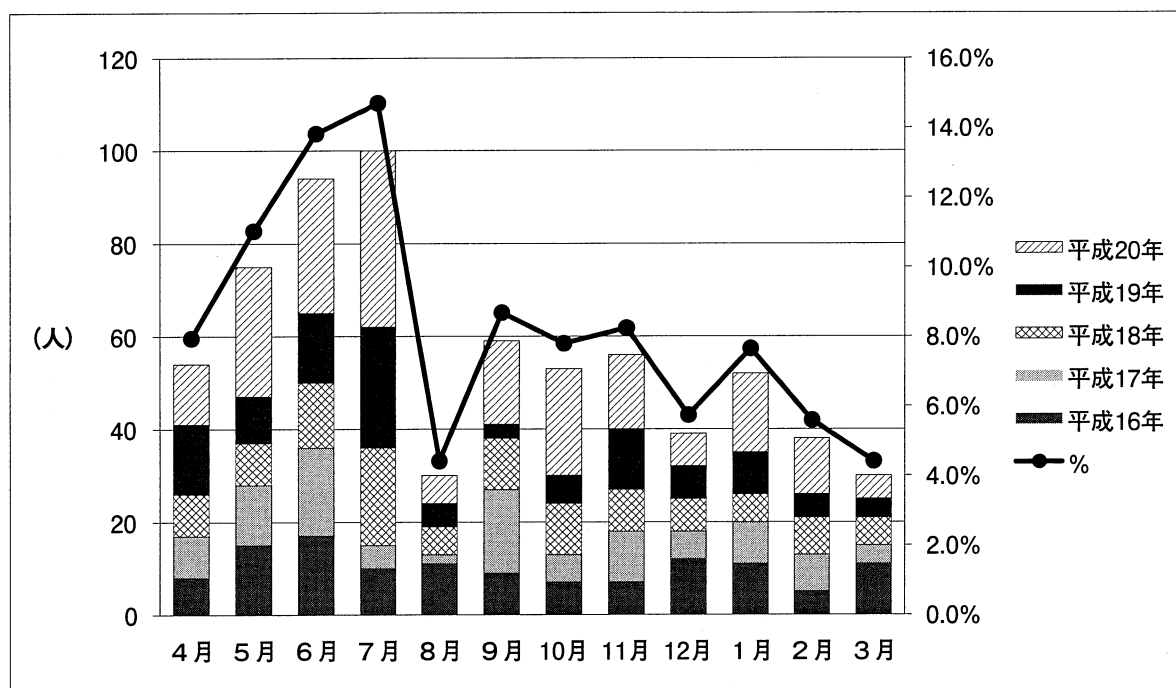
② 初診者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	13	13	11	9	2	6	5	13	11	6	3	9	101
平成17年度	20	17	23	7	2	9	11	8	7	7	5	2	118
平成18年度	18	13	25	11	3	5	13	7	0	3	2	3	103
平成19年度	24	14	28	30	1	8	15	17	9	10	8	4	168
平成20年度	30	39	25	28	0	4	23	9	9	11	3	1	182
合計人数	105	96	112	85	8	32	67	54	36	37	21	19	672
%	15.6%	14.3%	16.7%	12.6%	1.2%	4.8%	10.0%	8.0%	5.4%	5.5%	3.1%	2.8%	100.0%



③ 再診者数

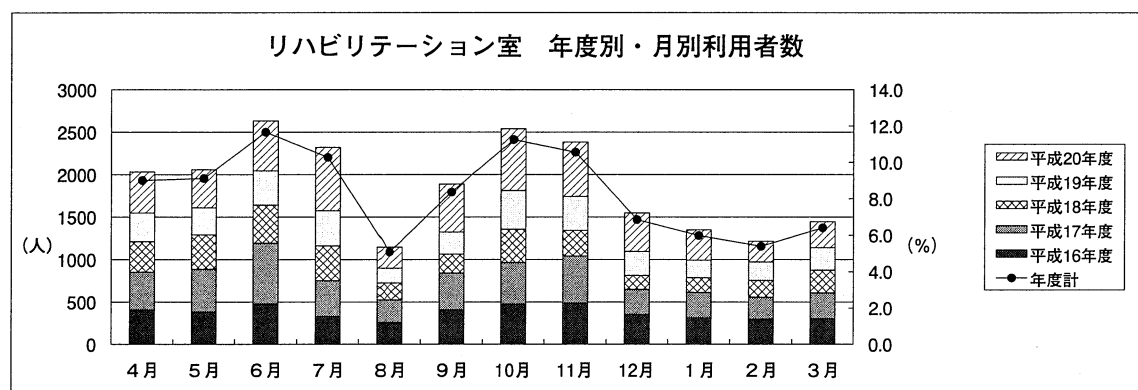
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	8	15	17	10	11	9	7	7	12	11	5	11	123
平成17年度	9	13	19	5	2	18	6	11	6	9	8	4	110
平成18年度	9	9	14	21	6	11	11	9	7	6	8	6	117
平成19年度	15	10	15	26	5	3	6	13	7	9	5	4	118
平成20年度	13	28	29	38	6	18	23	16	7	17	12	5	212
合計人数	54	75	94	100	30	59	53	56	39	52	38	30	680
%	7.9%	11.0%	13.8%	14.7%	4.4%	8.7%	7.8%	8.2%	5.7%	7.6%	5.6%	4.4%	100%



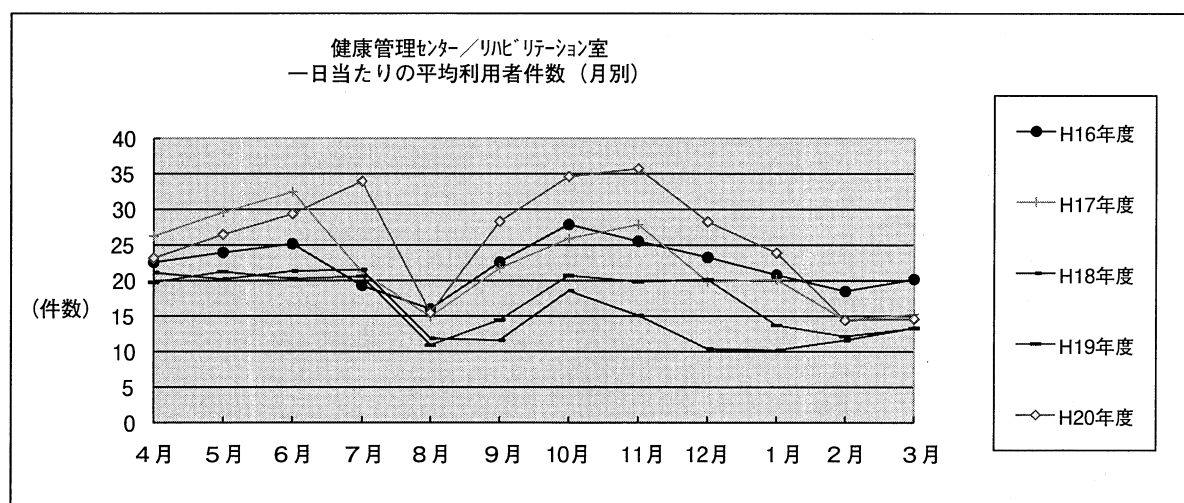
(2) リハビリテーション室 年度別・月別利用者数

利用者数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成16年度	406	383	478	328	256	407	474	485	349	312	296	303	4477	373
平成17年度	446	503	714	424	268	435	492	557	298	302	260	305	5004	417
平成18年度	359	404	448	409	201	220	390	302	166	173	197	266	3535	295
平成19年度	336	319	405	412	174	260	456	397	282	205	218	265	3729	311
平成20年度	486	450	587	747	247	566	727	643	452	358	245	307	5815	485
合 計	2033	2059	2632	2320	1146	1888	2539	2384	1547	1350	1216	1446	22560	—
年度計	9.0	9.1	11.7	10.3	5.1	8.4	11.3	10.6	6.9	6.0	5.4	6.4	100.0	—

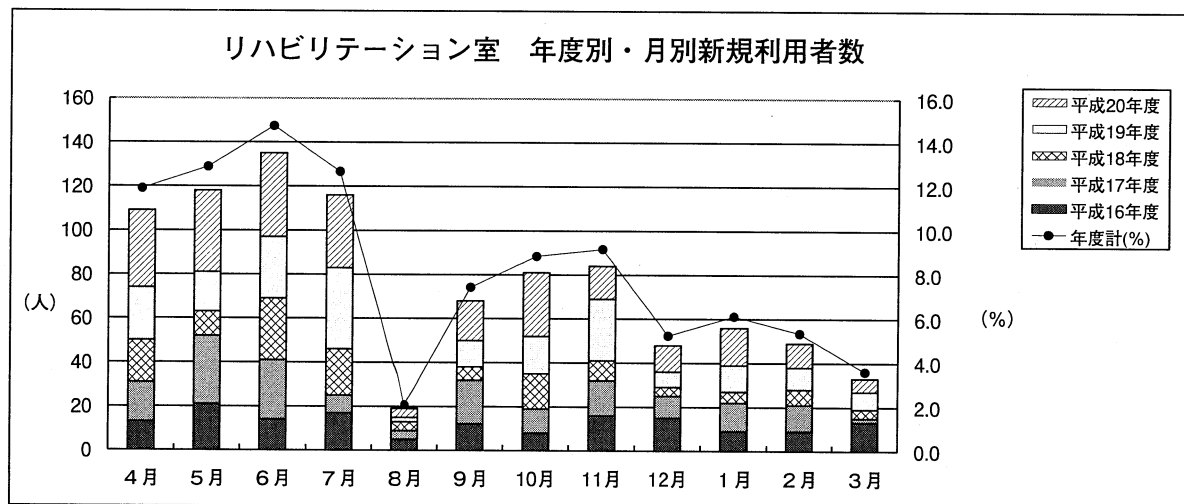


新規利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H16年度	22.6	23.9	25.2	19.3	16.0	22.6	27.9	25.5	23.3	20.8	18.5	20.2	22.1
H17年度	26.2	29.6	32.5	21.2	14.9	21.8	25.9	27.9	19.9	20.1	14.4	15.3	22.5
H18年度	21.1	20.2	21.3	21.5	11.8	11.6	18.6	15.1	10.4	10.2	11.6	13.3	15.6
H19年度	19.8	21.3	20.3	20.6	10.9	14.4	20.7	19.9	20.1	13.7	12.1	13.3	17.2
H20年度	23.1	26.5	29.4	34.0	15.4	28.3	34.6	35.7	28.3	23.9	14.4	14.6	25.7



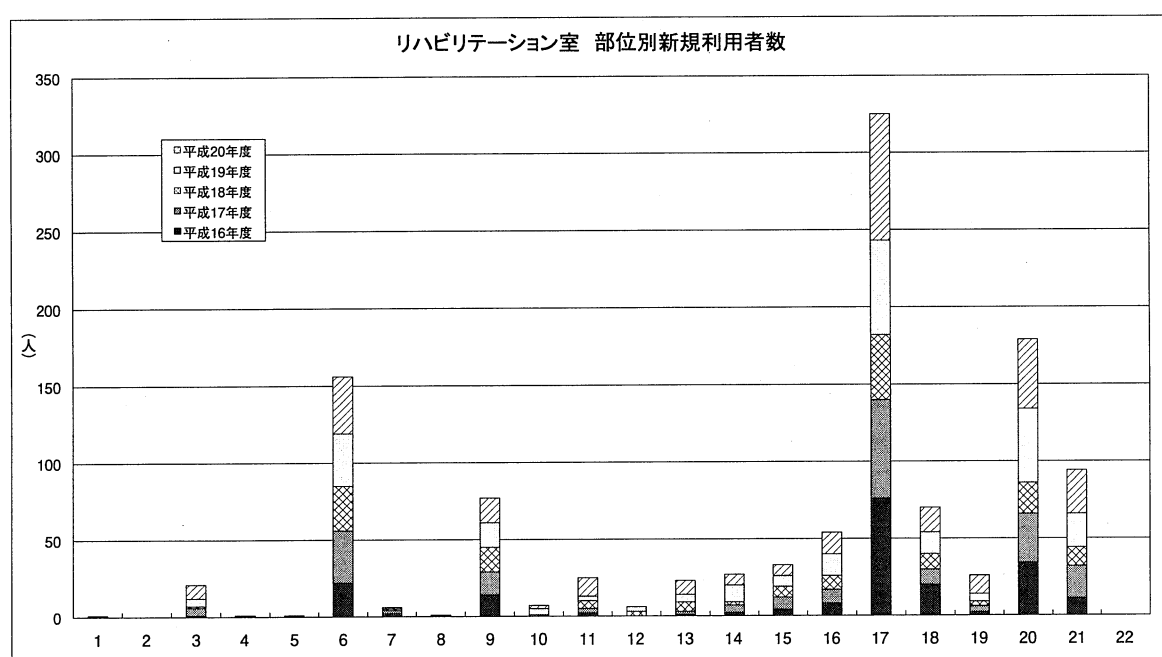
新規利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	13	21	14	17	5	12	8	16	15	9	9	13	152
平成17年度	18	31	27	8	4	20	11	16	10	13	12	2	172
平成18年度	19	11	28	21	4	6	16	9	4	5	7	4	134
平成19年度	24	18	28	37	2	12	17	28	7	12	10	8	203
平成20年度	35	37	38	33	4	18	29	15	12	17	11	6	255
合 計	109	118	135	116	19	68	81	84	48	56	49	33	916
年度計 (%)	11.9	12.9	14.7	12.7	2.1	7.4	8.8	9.2	5.2	6.1	5.3	3.6	100.0

部位・件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年度	20	28	17	28	6	13	8	18	20	13	13	19	203
平成17年度	23	46	36	10	6	23	14	19	10	14	12	3	216
平成18年度	21	13	41	29	5	7	17	13	4	6	8	6	170
平成19年度	29	19	41	46	2	15	23	38	8	15	12	8	256
平成20年度	39	45	44	38	5	22	37	16	14	20	12	8	300
合 計	132	151	179	151	24	80	99	104	56	68	57	44	1145



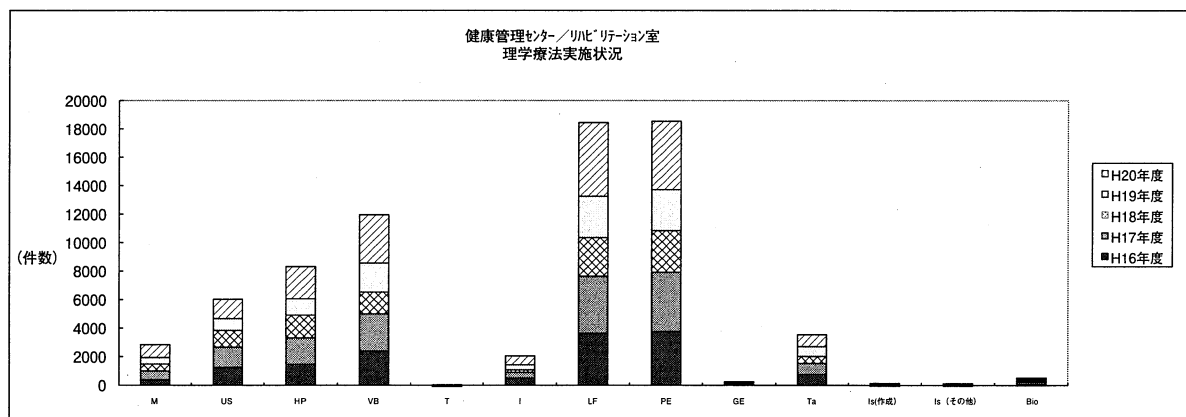
部位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	合計
1	0	0	0	0	1	1
2	0	0	0	0	0	0
3	1	5	1	5	9	21
4	1	0	0	0	0	1
5	1	0	0	0	0	1
6	22	34	29	34	37	156
7	2	2	1	0	1	6
8	0	0	0	1	0	1
9	14	15	16	16	16	77
10	0	0	1	4	2	7
11	2	3	5	3	12	25
12	0	0	3	3	0	6
13	1	2	6	5	9	23
14	2	5	2	11	7	27
15	4	8	7	7	7	33
16	8	9	9	14	14	54
17	76	64	42	61	82	325
18	20	10	10	14	16	70
19	2	4	3	5	12	26
20	34	32	20	48	45	179
21	11	21	12	22	28	94
22	0	0	0	0	0	0
合計	201	214	167	253	298	1133

1 = 頭部 2 = 顔面 3 = 頸部 4 = 胸部 5 = 腹部 6 = 腰・背部 7 = 骨盤・臀部 8 = 鎖骨部
9 = 肩関節 10 = 上腕部 11 = 肘関節 12 = 前腕部 13 = 手関節 14 = 手・手指部
15 = 股関節 16 = 大腿部 17 = 膝関節 18 = 下腿部 19 = アキレス腱部 20 = 足関節 21 = 足・足指部
22 = その他

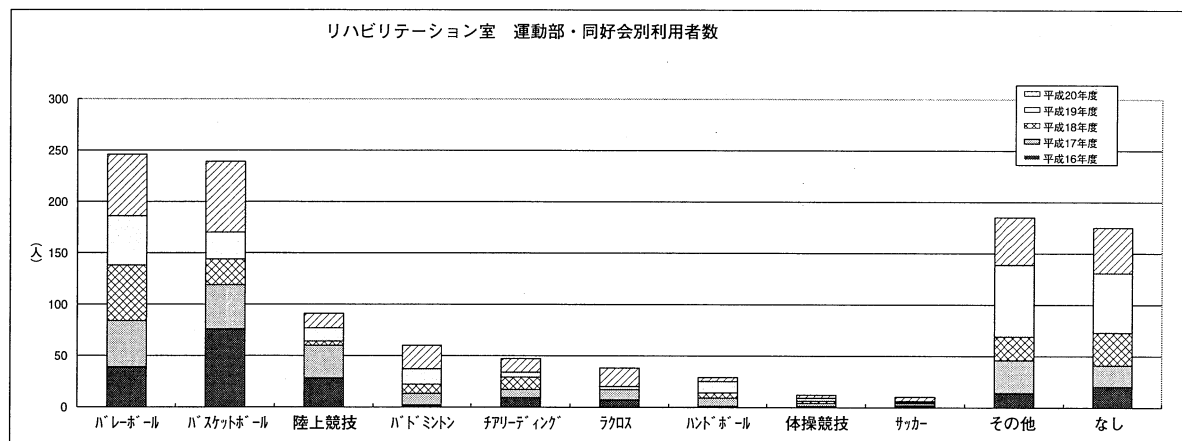


	M	US	HP	VB	T	I	LF	PE	GE	Ta	Is (作成)	Is (その他)	Bio
平成16年度	372	1248	1465	2380	3	497	3608	3758	155	749	31	33	66
平成17年度	630	1419	1846	2613	2	396	4041	4163	65	794	29	35	146
平成18年度	483	1166	1590	1530	17	185	2710	2923	26	473	15	21	110
平成19年度	447	830	1154	2044	5	364	2885	2873	1	687	31	17	87
平成20年度	899	1353	2258	3382	0	600	5207	4821	0	831	25	19	101
合計	2831	6016	8313	11949	27	2042	18451	18538	247	3534	131	125	510

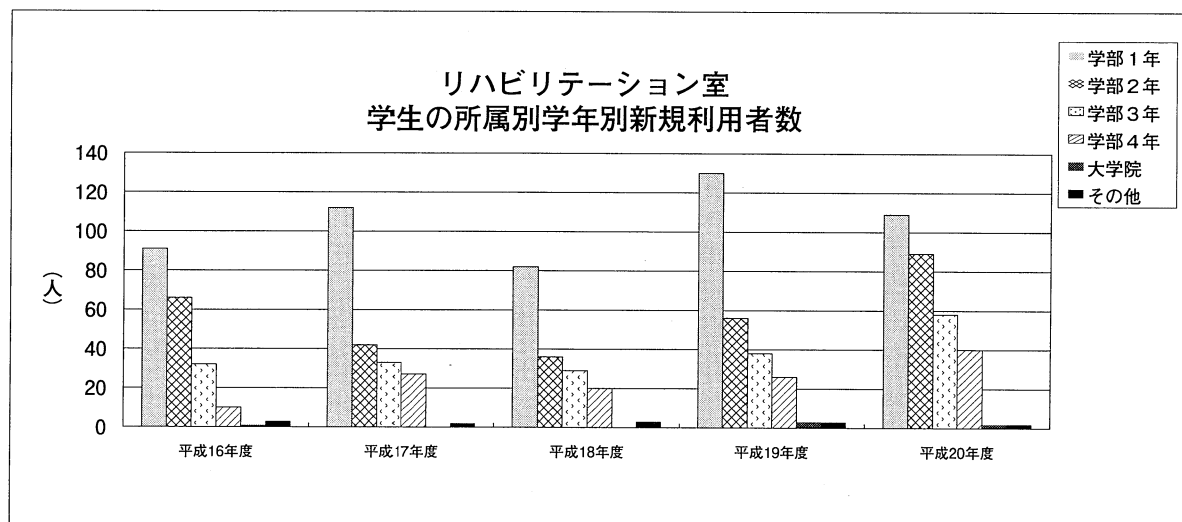
* M = マッサージ US = 超音波 HP = ホットパック VB = 渦流浴 T = 牽引 LF = 低周波
 PE = 患部訓練 GE = 患部外訓練 Ta = テーピング Is = 足底板 Bio = 筋力測定
 * 超音波治療器 (リース開始: 平成7年11月～)



所 属 内 訳	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	合計	その他内訳	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	合計	その他内訳	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	合計
バレーボール	39	45	54	48	60	246	モダンダンス	4	3	0	3	4	14	ライフセービング	0	0	0	6	9	15
バスケットボール	76	43	25	26	69	239	水 泳	0	3	0	9	3	15	ス ケ ー ト	0	0	0	1	0	1
陸 上 競 技	28	32	4	13	14	91	舞 踊	0	0	3	1	3	7	卓 球	1	2	0	2	1	6
バドミントン	2	11	9	15	23	60	フェンシング	2	0	0	0	2	4	な ぎ な た	1	2	0	0	1	4
チアリーディング	9	8	12	5	13	47	ソフトテニス	0	0	4	1	2	7	基礎スキー	1	2	0	0	0	3
ラ ク ロ ス	7	10	0	3	18	38	ソフトボール	1	3	0	0	1	5	ゴ ル フ	0	1	0	0	0	1
ハンドボール	1	8	5	11	4	29	ス キ ー	2	1	2	5	4	14	漕 艇	0	0	0	0	0	0
体 操 競 技	1	3	2	3	3	12	剣 道	0	0	0	2	1	3	軟 式 野 球	1	0	1	13	8	23
サ ッ カ ー	2	2	1	1	4	10	少林寺拳法	0	1	0	0	0	1	弓 道	0	0	0	2	2	4
そ の 他	14	32	23	70	46	185	競技ダンス	0	7	8	11	1	27	テ ニ ス	1	4	5	4	1	15
な し	20	21	32	58	44	175	新 体 操	0	3	0	10	3	16							
合 計	160	170	113	205	238	1132														



	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	大学院	その他	合 計
平成16年度	91	66	32	10	1	3	203
平成17年度	112	42	33	27	0	2	216
平成18年度	82	36	29	20	0	3	170
平成19年度	130	56	38	26	3	3	256
平成20年度	109	89	58	40	2	2	300
合計	524	289	190	123	6	13	1145



(3) カウンセリング室

カウンセリング室利用件数（年度別・月別）

表1 学外カウンセラー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年	11	16	31	30	3	11	20	19	8	13	9	12	183
平成17年	17	28	36	22	6	5	33	30	23	27	12	5	244
平成18年	16	21	14	17	5	2	25	32	21	27	4	1	185
平成19年	8	8	26	31	8	7	32	30	21	28	7	7	213
平成20年	10	17	21	34	3	11	31	23	19	15	4	6	194
合計人数	62	90	128	134	25	36	141	134	92	110	36	31	1019
%	6.1%	8.8%	12.6%	13.2%	2.5%	3.5%	13.8%	13.2%	9.0%	10.8%	3.5%	3.0%	100%

表2 学内カウンセラー（%：18～20年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年													
平成17年			4	20	4	5	17	13	6	5	4	5	83
平成18年	5	13	16	22	4	7	10	8	5	2	2	4	98
平成19年	9	12	11	9	0	1	5	8	1	8	10	5	79
平成20年	7	9	20	26	2	7	21	14	14	8	4	3	135
合計人数	21	34	51	77	10	20	53	43	26	23	20	17	395
%	6.7%	10.9%	15.1%	18.3%	1.9%	4.8%	11.5%	9.6%	6.4%	5.8%	5.1%	3.8%	100%

表3 総件数（%：18～20年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成16年	11	16	31	30	3	11	20	19	8	13	9	12	183
平成17年	17	28	40	42	10	10	50	43	29	32	16	10	327
平成18年	21	34	30	39	9	9	35	40	26	29	6	5	283
平成19年	17	20	37	40	8	8	37	38	22	36	17	12	292
平成20年	17	26	41	60	5	18	52	37	33	23	8	9	329
合計人数	83	124	179	211	35	56	194	177	118	133	56	48	1414
%	6.1%	8.8%	11.9%	15.4%	2.4%	3.9%	13.7%	12.7%	9.0%	9.7%	3.4%	2.9%	100%

カウンセリング室利用者数（年度別・月別）

表4 学外カウンセラー（％：16～20年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実人数	利用者 / 在籍者
平成16年	8	10	12	15	2	6	9	8	5	6	5	5	30	1.2
平成17年	8	11	12	10	4	4	11	11	12	12	8	4	22	0.9
平成18年	9	9	9	8	3	2	9	12	11	13	3	1	20	0.8
平成19年	5	7	9	10	6	4	13	10	9	11	5	6	25	1.1
平成20年	5	10	9	10	3	8	12	12	9	9	4	5	21	0.9
合計人数	35	47	51	53	18	24	54	53	46	51	25	21	118	
％	7.3%	9.8%	10.7%	11.1%	3.8%	5.0%	11.3%	11.1%	9.6%	10.7%	5.2%	4.4%	100%	

表5 学内カウンセラー（％：18～20年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実人数	利用者 / 在籍者
平成16年														
平成17年			2	9	4	4	11	8	5	3	4	3	33	1.3
平成18年	5	9	9	12	3	5	5	7	3	2	1	1	27	1.1
平成19年	5	9	7	5	0	1	3	6	1	5	3	4	25	1.1
平成20年	4	5	9	12	2	6	13	8	7	4	4	3	30	1.3
合計人数	14	23	27	38	9	16	32	29	16	14	12	11	115	
％	7.4%	12.2%	13.3%	15.4%	2.7%	6.4%	11.2%	11.2%	5.6%	5.6%	4.3%	4.3%	100%	

表6 総実数（％：18～20年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実人数	利用者 / 在籍者
平成16年	8	10	12	15	2	6	9	8	5	6	5	5	30	1.2
平成17年	8	11	14	19	8	8	22	19	17	15	12	7	55	2.2
平成18年	14	18	18	20	6	7	14	19	14	15	4	2	47	1.9
平成19年	10	16	16	15	6	5	16	16	10	16	8	10	50	2.1
平成20年	9	15	18	22	5	14	25	20	16	13	8	8	51	2.2
合計人数	49	70	78	91	27	40	86	82	62	65	37	32	233	
％	7.1%	10.5%	11.1%	12.2%	3.6%	5.6%	11.8%	11.8%	8.5%	9.4%	4.3%	4.3%	100%	

表7 相談内容別利用件数（延べ）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	合計	%
心理的問題	114	163	143	133	233	786	55.6%
身体的問題	32	36	33	0	1	102	7.2%
部活動	9	89	64	47	38	247	17.5%
学業	0	0	1	26	0	27	1.9%
家族関係	6	0	0	45	34	85	6.0%
進路	5	26	16	9	4	60	4.2%
友人関係	6	9	6	3	1	25	1.8%
その他	11	4	20	29	18	82	5.8%
総計	183	327	283	292	329	1414	100%

表8 相談内容内訳

心理的問題	対人緊張・自傷行為・摂食障害・性同一性障害・性格・気分障害・他
身体的問題	持病・怪我・他
部活動	先輩との関係や規則に馴染めない・成績不良・部活を変えたい・他
学業	単位不足・授業を休みがち・他
家族関係	家族との関係が悪い・他
進路	就職・他
友人関係	信頼できる友人がいない・友人とのトラブル・他
その他	精神的援助が必要な家族がいる・問題を抱えている学生への対応

※その他：教職員、学生の家族、卒業生

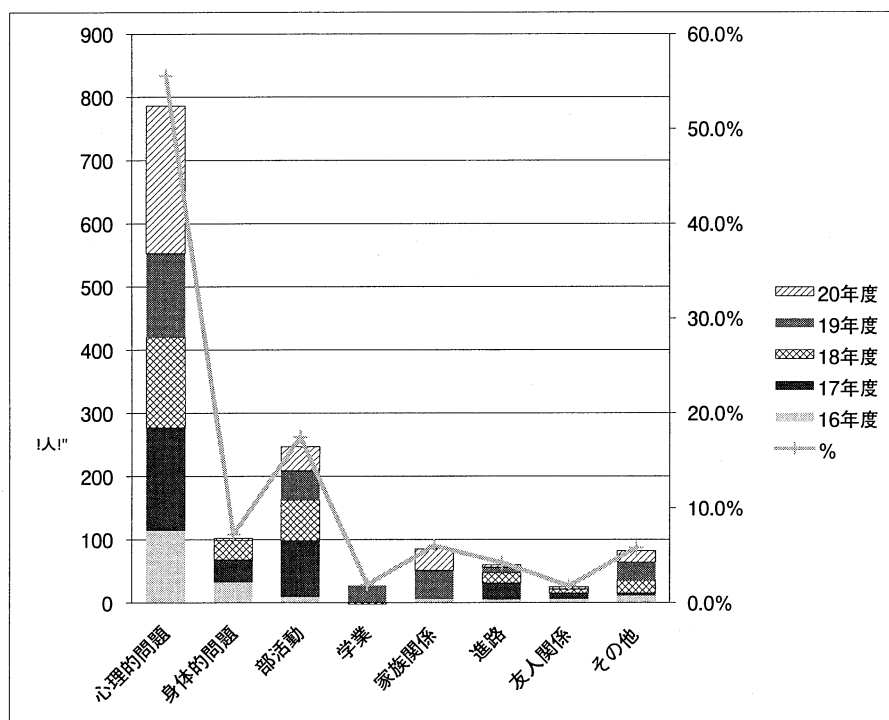
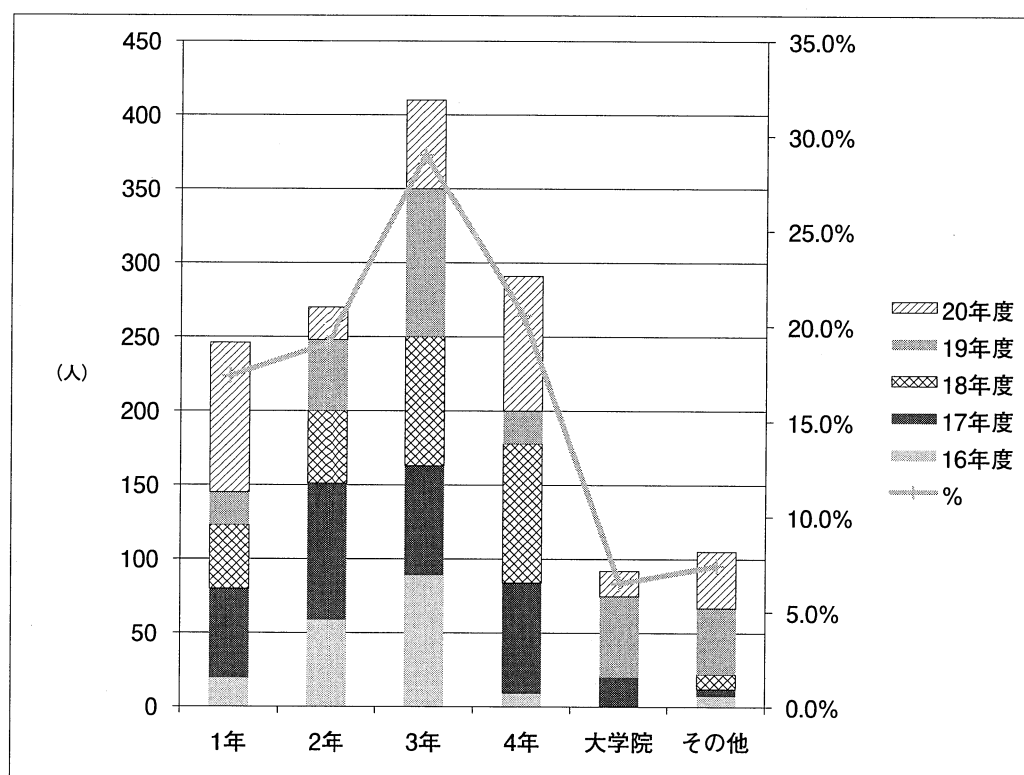


表9 学年別利用件数（延べ）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	合計	%
1 年	19	61	43	22	101	246	17.4%
2 年	59	92	49	48	22	270	19.1%
3 年	89	74	87	100	60	410	29.0%
4 年	9	75	94	22	91	291	20.6%
大学院	0	20	0	55	17	92	6.5%
その他	7	5	10	45	38	105	7.4%
合 計	183	327	283	292	329	1414	100%

※その他：教職員、学生の家族、卒業生



IV. 関連資料

1 関連研究会・会議への参加

(1) 健康管理室看護師

- ・全国大学保健研究集会
- ・関東甲信越保健研究集会

(2) リハビリテーション室理学療法士

- ・日本理学療法士学会
- ・日本体力医学会大会
- ・日本臨床スポーツ医学会
- ・スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
- ・エフテックス・インスティテュート全国研修会

2 健康管理センターを利用した研究の発表

(1) 学術論文

なし

(2) 学会発表

板倉尚子「足関節外側靱帯損傷の受傷機転と圧痛部位の関係」

第40回日本理学療法学術大会2005年

板倉尚子「日本女子体育大学健康管理センターリハビリテーション活動報告」

第60回日本体力医学会大会2005年

板倉尚子「女子体育大学某運動部におけるブロック別および学年別外傷発生状況」

第41回日本理学療法学術大会2006年

板倉尚子「バレーボール選手に生じた膝蓋靱帯炎

——圧痛部位と発生要因の検討——」

第61回日本体力医学会大会2006年

板倉尚子「腓骨筋エクササイズにおける誤操作が近位脛腓関節に与える影響」

第43回日本理学療法学術大会2008年

酒井久実代「女子体育大学におけるピアサポート活動

——一般学生の受入とサポーターへの影響——」

日本学生相談学会第27回大会2009年

(3) その他の雑誌等

板倉尚子「体育大学学生の健康管理に関わる理学療法士の活動の現状と課題」

理学療法2005年9月号第22巻第9号

板倉尚子「特集／アスレティックトレーナー」

トレーニングジャーナル2006年4月号第28巻第4号

板倉尚子「膝関節：基本的なテーピングテクニック

—膝伸展機構の問題へのテーピング—」

臨床スポーツ医学2007年4月号第24巻第4号

板倉尚子「予防としてのスポーツ医学—鷺足炎—」

臨床スポーツ医学臨時増刊号2008年

板倉尚子「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第5巻

—アスレティックトレーナーに必要な検査測定の方法」

(財)日本体育協会2007年

板倉尚子「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第7巻

—競技特性に基づいたリハビリテーションプログラム—バレーボール」

(財)日本体育協会2007年

3 健康管理センター年間計画

月	学生や職員対象の活動	その他の活動
4	入学式待機 健康診断（新1、2、3年生、大学院1年生） 学生生活安全指導（性感染症・喫煙と健康）	
5	健康診断再検者の呼び出し 再検査・食生活指導・医療機関への紹介 職員の健康診断	日本理学療法士学会
6	オープンキャンパス待機	
7	陸上競技部 貧血検査・食生活指導 オープンキャンパス待機 AO入試セミナー待機	地方大学保健学会 全国大学保健管理協会 関東甲信越地方部会
8	オープンキャンパス待機 AO入試事前健康診査	ダンスワークセミナー待機
9	陸上競技部 貧血検査・食生活指導 AO入試2次選考待機	日本体力医学会 公開講座（プール待機）
10	健美祭待機 リハビリ勉強会（2回／月 希望学生対象）	全国大学保健管理研究集会 地域交流講座（プール待機）
11	防災訓練 推薦入試事前健康診査 推薦入試待機 リハビリ勉強会（2回／月 希望学生対象）	三鷹高齢者測定 臨床スポーツ医学
12	AO入試Ⅱ期待機 リハビリ勉強会（2回／月 希望学生対象）	
1	一般入試事前健康診査 大学入試センター試験待機	
2	健康診断（3年生、大学院1年生） バレーボール部のメディカルチェック 一般入試待機	
3	健康診断再検者の呼び出し 再検査・食生活指導・医療機関への紹介 陸上競技部 貧血検査・食生活指導 オープンキャンパス待機 卒業式待機	

健康管理センター

4 健康管理センター職員

平成20年3月

センター長：片岡洵子
健康管理医：松本晃裕
看護師：前田真弓
細川明子（非常勤）
理学療法士：板倉尚子
北谷戸春香（非常勤）
リハ室診療補助：原木早智（非常勤）
湯川理奈（非常勤）
整形外科医：中川種史（非常勤）
白土貴史（非常勤）
平野 篤（非常勤）
内科医：山本理子（非常勤）
カウンセラー：酒井久実代（兼任）
（臨床心理士） 上平京子（非常勤）

平成21年3月

センター長：片岡洵子
健康管理医：松本晃裕
看護師：前田真弓
細川明子（非常勤）
理学療法士：板倉尚子
渡部真由美（非常勤）
リハ室診療補助：原木早智（非常勤）
湯川理奈（非常勤）
整形外科医：中川種史（非常勤）
白土貴史（非常勤）
平野 篤（非常勤）
内科医：山本理子（非常勤）
カウンセラー：酒井久実代（兼任）
（臨床心理士） 上平京子（非常勤）

5 健康管理センター運営委員会

平成17年度

北岡 晶（センター長）、畑 攻研究科長、高橋和之学科長、中村 泉学科長
笹倉清則、内田彰子（健康管理医）、酒井久実代、事務局長、総務課長、学生課長

平成18年度

北岡 晶（センター長）、畑 攻研究科長、高橋和之学科長、中村 泉学科長
田島啓子、内田彰子（健康管理医）、酒井久実代、事務局長、総務課長、学生課長

平成19年度

片岡洵子（センター長）、畑 攻研究科長、高橋和之学科長、中村 泉学科長
田島啓子、松本晃裕（健康管理医）、酒井久実代、事務局長、総務課長、学生課長

平成20年度

片岡洵子（センター長）、畑 攻研究科長、笹倉清則学科長、中村 泉学科長
松本晃裕（健康管理医）、酒井久実代、事務局長、総務課長、学生課長

平成21年度

片岡洵子（センター長）、定本朋子研究科長、笹倉清則学科長、中村 泉学科長
松本晃裕（健康管理医）、酒井久実代、内山有子、事務局長、総務課長、学生課長